

# 青葉区 地域福祉保健計画 中間評価

区民・事業者・行政の協働による福祉保健のまちづくり  
～みんなの力で！もっと素敵に青葉区ライフ～



## ◆青葉区地域福祉保健計画とは？

青葉区では、『誰もが担い手であり、受け手である地域社会をつくる』という目標を達成するために、必要な仕組みを4つの施策として体系的に整理しています。

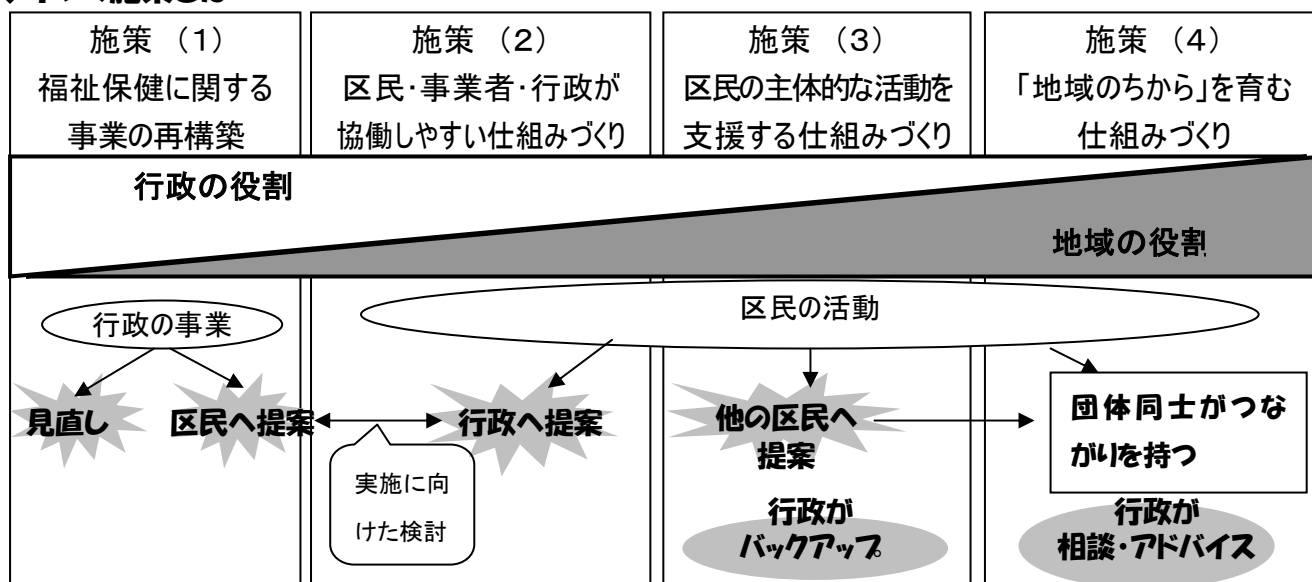
その4つの施策において、行政と地域がそれぞれの役割を發揮することにより、仕組み全体が機能し、協働による福祉保健のまちづくりを実現していくことをねらいとした5か年計画です。

## ◆中間評価とは？

平成19年度は地域福祉保健計画の中間年にあたります。

したがって、平成17年からの3年間で、この4つの施策の中で、どのようなものが構築され、地域課題の解決にどういった形で結びついているのかについて構築・推進状況を振り返るとともに、計画の目標がどこまで達成できているかについて評価することで今後の施策の展開に活用していきます。

## ◆4つの施策とは？



今回の中間評価では「各施策の評価」をもとに、「計画全体の評価」をおこないました。この評価を今後の計画推進に、反映させていきます。

◆各施策の評価

施策1

庁内プロジェクト

《成果》

- この計画への職員の認知度・理解度の向上につながり、計画の推進役としての意見を聞くことが出来、計画に関する議論を進めることのできる場となっている。
- 福祉保健センター全体の情報の共有化が図られることで、区民への満足度の向上につながっている。

《課題》

- 事業の再構築については、新規事業の提案に結びつかなかったので、今後はより意見交換・情報共有を進めていき、福祉保健課、サービス課の事業に対して議論する場としていきたい。



施策2,3

協働による地域力アップ事業

《成果》

- 地域の様々な活動が立ち上がり、地域や世代などによる様々な課題（子育て情報の提供、高齢者の生きがいづくりなど）の解決に貢献している。
  - 今後課題を解決していく上でのモデルケースとなるような活動も生み出すことができています。
- 【3カ年の提案事業】※3年間で全9事業を実施しました。
- ・てとととあおば・子育て交流、ネットワークづくり
  - ・あおば子育てワカ会議健診グループ・健診時の子育て情報提供の場
  - ・野土花むら・世代間交流の場
  - ・銀の会・高齢者の生きがいづくりの場
  - ・アシストあおば・介護者の生きがいづくりの場
  - ・デイサービスひろがりサロン・高齢者の生きがいづくりの場
  - ・あおば子育てワカ会議あざみ野授乳室開設・運営チーム・地域で安心できる授乳の場
  - ・ヘルスアップ山内・地域での定期的な健康づくりの場
  - ・恩田・奈良・奈良北ふれあいクラブ・地域での多様な健康づくりの場
  - ・心身感動研究会・地域での健康づくりの場



てとととあおば



恩田・奈良・奈良北ふれあいクラブ



銀の会



野土花むら

《課題》

- 認知度の向上
- 団体と行政の目的の共有化

施策4

地域支えあいネットワーク  
エリア別検討会

《成果》

- 地域のメンバーのヨコのつながりを重視し、定期的に話し合う機会を持つことで地域課題が見え、取り組んでいる。
  - 関係者間の地域資源や地域ニーズの共有により地域課題が見えてきている。
- ※全8ネットワークでさまざまな取組が行われました。

【具体例】

- ・ボランティア講座・サポーター講座の実施（担い手づくり）
- ・地域活動をおこなうための情報冊子づくり（情報提供）
- ・高齢者向けの多様な情報冊子づくり（情報提供）
- ・ケアプラザオープンスペースを活用した交流の場づくり（地域交流）



緑の郷ボランティア講座の様子

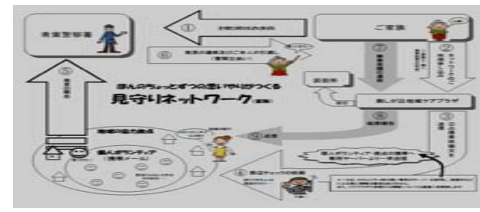


「ふらっともえぎ野」の様子



地域情報満載の冊子

- ・地域で高齢者を見守るネットワークづくり（ネットワーク）



徘徊高齢者の対応システムづくり

《課題》

- 事務局機能の強化
- 支えあいネットワークに関する地域への周知や理解

地域ケアプラザを拠点とした  
地域活動の広がり

《成果》

- 地域ケアプラザの拠点機能としての存在意義は大きい。
- 地域住民は、貸し館機能だけを求めているのではなく、そこでのコミュニケーションを重要と感じている。地域活動に必要な「つながり」を大切にしている。

【具体例】

- ・地域の資源や情報を把握、整理することにより、地域特性や課題が見えてきている。
- ・地域活動を行う上での重要な場となっている。
- ・地域ケアプラザの持つ情報を他の地域活動団体や関心のある人に提供出来ている。



《課題》

- コーディネート機能の強化
- 職員のスキルアップの為の支援や情報提供
- 区社協との連携

◆計画全体の評価

《成果》

地域の福祉保健活動は着実に進んでいる！担い手の意識が高く、お互いの役割を尊重しながら行動に結びついている！

- 民生委員、保健活動推進委員等福祉保健の中心となる担い手については計画への理解関心度が高く、実際に様々な地域福祉活動を活発に展開している。
- 地域のつながりやネットワークが見えてきており（施策4）、その中で様々な新しい取組が芽生えてきている（施策2・3・4）。
- 仕組みを活用することで地域の課題が解決されており、一定の効果が得られていると考えられる。結果として地域福祉保健に関するまちづくりは進められつつあると解釈できる。

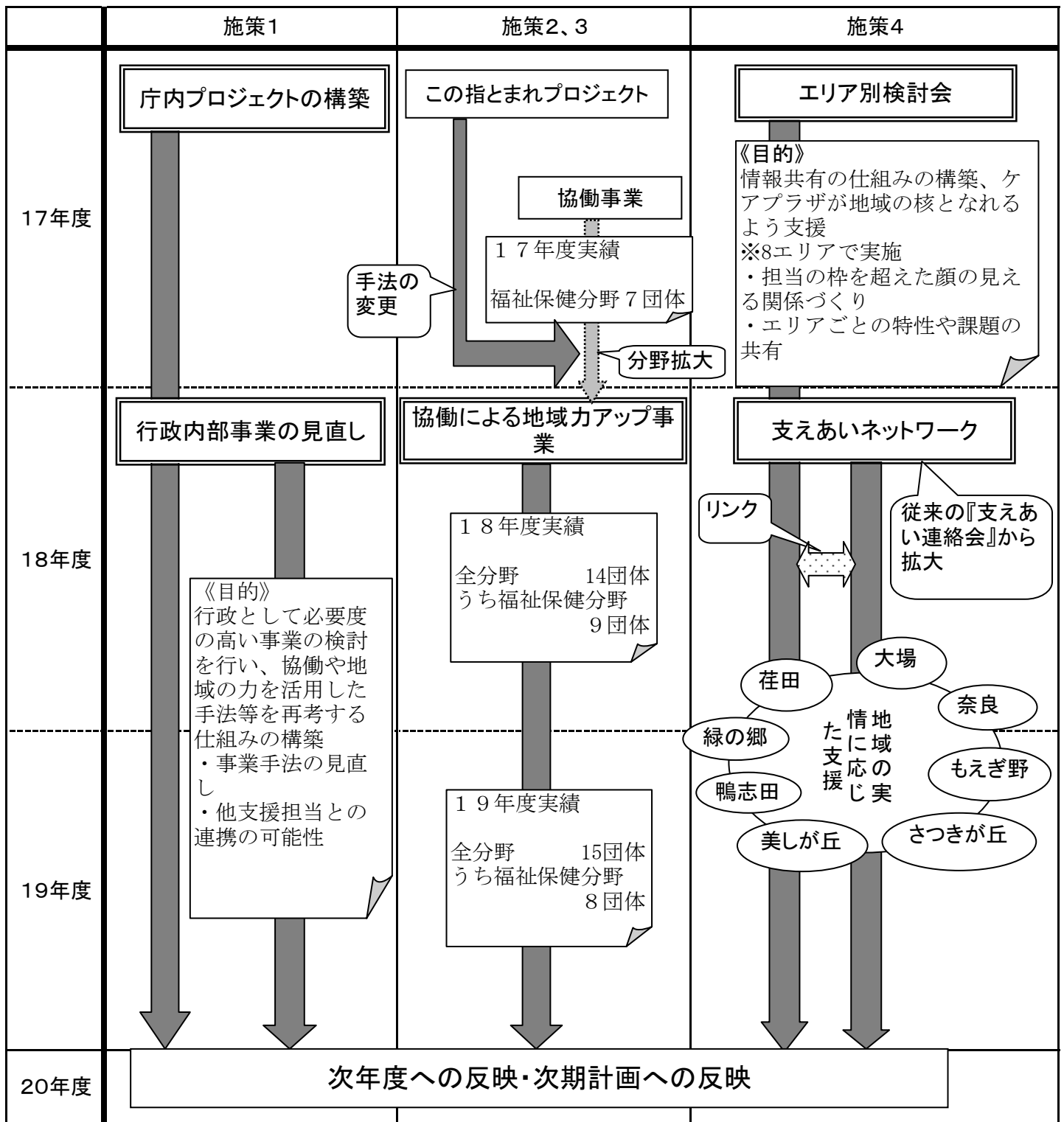
《今後改善すべき課題》

裾野を広げていくこと！→行政・地域ケアプラザの支援体制や計画の広報戦略の充実を！

- 現在活躍中の区民（団体）については計画の理解度や活動の満足度を高めるためにはバックアップ体制づくりが必要
- 地域福祉保健活動により多くの人に参画してもらうため（担い手の育成）にはより一層の広報や企画等のしかけづくりが必要（※ボランティア講座だけで終わらない、活動の場の提供など）
- 上記のバックアップ体制やしかけづくりには、行政や区社協、ケアプラザ職員の更なる連携が必要
- 地域のつながりをより一層広げていくためにさまざまなしかけづくりが必要
- 行政でも庁内プロジェクトなどで、地域支援のあり方についてより一層の検討が必要

# 【参考】青葉区地域福祉保健計画 3か年の推移について

平成17年度より3年間で仕組みが構築されてきました。



これからも青葉区では福祉保健のまちづくりのために仕組みづくりを充実させていきます。そのために、ぜひ皆様の力を発揮して頂き、協働して様々な取組にチャレンジしていきましょう！

お問い合わせ  
青葉区福祉保健課事業企画係  
TEL：978-2437  
FAX：978-2419  
Email：ao-jigyokikaku@city.yokohama.jp

※中間評価にあたり、アンケートやヒアリングにご協力頂いた皆様、ありがとうございました。